【資料５】

平成２３年度
古賀市文化芸術審議会
団体ヒアリングに係る作業部会
報告書及び議事録

作業部会報告

作業部会長　古賀

1　日時　平成２３年１２月１２日（月）　１５：００～１７：００.

2　会場　リーパスプラザ中会議室

3　出席者

作業部会委員　古賀、中山、石井、坂崎（欠席：岩村）

事務局　吉永、樋口、向井、甲斐

4　文化団体ヒアで出てきた課題

・団体運営について・・・情報発信、会場、資金、会員集め（運営の担い手不足、若手不足など）

・地域とのつながりをもつ団体は腰が強く自助努力をしているが、そうでない団体からは行政の支援がないと活動を継続できないという声が多数あがった。

・行政への根強い不信感・・・行政側に一緒に汗をかく姿勢が足りない、支援してもらって当然という考え方→違和感あり

・古賀市の文化に関する高い視点からの意見、古賀市はどうあるべき、という意見は少なかった。

・古賀市民の文化度の低さを嘆く声が多く聞かれた。（いい活動をしているのに見に来ない、メンバーが集まらない、など）

・ほかに歴史文化の活動は？

・・・小粒の資源が点在していて、対外的にも対内的にも大きなインパクトがない。ただし、歴史文化の分野で活動している市民団体は歴史資料館の活動と良好な関係があり、資料館からは情報提供＆活動場所の提供、団体側からは展示の際の制作や解説などの協力が行われている。→芸術文化系団体の姿勢との違いが見える。

5　課題解決の方向性

・団体間の交流、連携の機会をつくる・・・互いのノウハウを共有すると解決できる部分もある。

・各団体の情報を集約した発信

・文化活動支援センターのような相談窓口の設置・・・交流と情報発信の機関でもある。（担い手が誰なのかは要検討）

・行政の支援を検討するなら、文化を通じて実現したい政策の大目標があって

【裏面へ】

それに到達するために文化団体の活動だから支援する、という流れのはず。つまり、政策目標に向けて誘導する助成金制度などは可能性があるかも。それ以外は公金を投入するほどの公共性があるのかを振り返る力が団体側にほしい。
・活動場所については、近隣市町との連携も含めて考えるべきではないか。
・運営の担い手としての諸々のノウハウ（広報、資金調達など）と活動の公共性と公的支援の関係などについて学ぶ人材育成講座も必要では？
・市民の文化度が低いのなら、いっそ子どもたちが文化にふれる機会を増やす（すそ野を広げる）ことに特化して１０年くらい取り組んでみては？

6　古賀市の文化振興の方向性について
・文化団体ヒアではなかなか文化振興の目標につながるような話題にならなかった。
・コレといった資源がないのが古賀市。条例にある基本理念をベースとして、すべての市民が心豊かに暮らし、活力のあるまちを文化で実現するような目標にする？
・商工振興、教育、医療、福祉など、従来の文化振興の枠を超えたところに視点を置くことが必要。
・市民の文化度向上→子どもの芸術体験の充実の方向性を１つの柱にしてもいいのでは？
・新規事業の立ち上げにつながるなら財源をねん出するため既存の事業や補助金の見直しも必要。

7　文化芸術振興基本計画（仮）の策定に向けて、考え方の確認
　文化や芸術の担い手、受け手、支え手のための環境をいかにバランスよく整備するか、が求められる。その先には何のために文化を振興するのか、という大きな目標が必要。

8　次回
＊全体会＊
日時　平成２４年1月１６日（月）　１５時から
場所　市役所第１庁舎第１委員会室
内容　①作業部会報告
②第４次古賀市総合振興計画について
③今後の審議会について

	(1) 市民の財産として―(2) 文化財が市民に適切に公開―(3) ふるさとこがの歴史文化に親しむ―と具体的な施策を文化芸術・歴史文化財と3点ずつ挙げております。代表的な指標でございますけれども、文化財のほうで指定文化財の数を21年度9だったのを5ヶ年後に15にしたいという計画しようとして挙げております。まだまだたくさん古賀市総合振興計画としてはありますけれども、文化あるいは文化財に関することについて説明させていただきました。以上でございます。
土師会長	3月議会で総合振興計画が議決されるようです。私たちの取り組む振興計画のベースというのは、いつまでに、また内容をどうしていくかが大きなテーマになると思います。では次に作業部会の報告を古賀作業部会長、お願いします。
古賀委員	作業部会の部会長を仰せつかっております古賀です。私のほうから作業部会で取り組んできました内容をご報告申し上げたいと思います。前回の審議会は10月13日でしたが、その後に5回の作業部会を行いました。そのうちの3回をかけて、古賀市内で活動する文化団体にヒアリングを行いました。ヒアリングに先立って、今年の夏にアンケート調査をいたしました。このアンケート調査の結果を踏まえて、アンケートにご協力くださった団体を中心に、もう少し詳細な内容のヒアリングを行いました。この内容を中心にご報告いたします。お手元に「作業部会報告」という資料がございます。こちらは今日の会議の開催通知にも同封してありましたので、ご一読いただいていると思いますが、今一度ご覧いただきながらお聞きいただければ幸いです。この作業部会報告は私が個人的に作成したものなので、一部私見が混じった内容であることをお断りいたします。まず3回に分けて開催しましたヒアリングですが、お聞きした内容は、各団体が日ごろ活動されている中で課題とされていること、ご苦労されていること、また古賀市の文化の状況について良い所と悪い所をお尋ねいたしました。このあたりについては各団体すべてに同じ内容でお聞きしています。それ以外は各団体の活動状況に応じて、個別の質問をさせていただきました。おおまかな概要を申し上げますと、活動に関してはやはり様々なご苦労があるようで、会場の面、資金面、情報発信の面、メンバーに関する課題、諸々の課題が沢山挙げられていました。このような日ごろのご苦労話をお聞きするだけでなく、古賀市の文化環境についてお尋ねしましたのは、今後私どもが文化芸術振興計画を作るにあたり、古賀市を文化でどのようなまちにしていきたいかという大きな目標を描き出したいというもくろみがあり、文化団体というのは古賀市の文化活動を担っている中心的な役割をお持ちだ思いますので、その方々が日ごろどんな思いを持って活動しておられるのかをお聞きして、それを参考にしたいという思いもありましたので、ご活動の苦労話をお聞きすると同時にそのように日ごろお考えのことや、古賀市を文化でどのように盛り上げていきたいかということも伺いたいと思って、ヒアリングをさせていただきましたが、結果は大半が苦労話で、

	古賀市を文化面でどのようにしていきたいという建設的な話で話題が膨らむということにはなりませんでした。そのことは大変残念なんですけれども、これもまた一つの課題かと思いますので、これをどんな風に生かしていくのかということは今後クリアしていかなくてはいけない点かと思います。それを踏まえてお手元の資料を見ていただきたいと思いますが、作業部会報告の「4 番文化団体ヒアで出てきた課題」で、団体運営に関していろんな苦労があるということですが、その中で地域とつながりを持っている団体は自助努力もかなりされているのですが、小学校単位などの小さな地域とのつながりがない団体に関しては、特に資金集めにも苦労されており、行政の支援が欲しいとはっきり言われていました。それがないと継続ができないという声も多数上がっていました。その一方では、これまでの行政との関係の中で、信頼関係が構築できていないというような現状が浮かび上がってきました。私たちは頑張っているのに古賀市は何もしてくれないという意識をお持ちの団体がかなりあったように思います。その原因は、もしかすると行政側に汗をかく姿勢が欠けていたのかもしれないし、文化団体側の意識の問題かもしれません。両面あるのではないかと思います。古賀市の文化に関する高い視点からの意見等がなかなか出てこなかったということもメモをしております。またいい活動をしているのに観客が集まらない、聴衆が集まらないという嘆きも多く聞かれ、それは古賀市民の文化度が低いからだという団体も複数ありました。他に歴史文化に関しては、様々な資源はあるが大きなインパクトを与えるような部分がないとのことで、ヒアリングに来てくれた団体は主に芸術文化系の団体でした。芸術文化と違う領域である歴史文化も審議会では領域として考えなければいけませんが、歴史文化の分野で活動している市民団体の方々は、歴史資料館の活動とは良好な関係を結ばれているということで、芸術文化系の団体との色合いの違いや姿勢の違いや行政との関係の違いがあることが浮かび上がってきました。こういった課題を何とか解決していかなければならないのですが、大きな方向性としては各団体同士の連携をもう少し進めていってはどうだろうかという意見がありました。ヒアリングの場が一種の交流の機会にもなったという風に思うのですが、団体のそれぞれのメンバーが複数の団体に所属しておられることもあって、まったく初対面の所ばかりではなかったと思うのですが、お互いの団体が活動していく中で抱えている課題を話し合うことはこれまでになかった状況でした。また「うちの団体はこういう風に課題解決している」というような情報交換ができれば行政に頼るばかりでなく、文化団体間の協力で課題解決ができるのではないかという感じがしました。各団体がイベントや公演を行うとき、それぞれに情報発信をしていますが、これを一元化したり、まとめて情報発信するような場や機関を作ることができれば大きな側面支援ができるのではないかと思います。こういった団体間の交流や情報発信も含めてですが、文化活動を支援するセンターのようなイメージの機関を作り、そこに相談できるような場があれば、団体間の交流も進みますし、情報発信もそのセンターが担えるかもしれません。ただしこれは行政がやるのか、文化団体側が集まって作るのかなど、担

	い手はだれかということは議論の余地があると思います。また大きな課題の一つですが、文化団体が行政に支援が欲しいという声を上げておられますが、何でも行政がお手伝いできるわけではありません。ですから基本計画を作るときに私たちがしていかなければならないのは、計画が文化団体の支援をするために作るわけではないと思います。文化で古賀市をどのようなまちにしていくのかという大きな目標があって、その目標に向かっていくときに、文化団体の活動がどうあればよいのかというところに注目して、それに沿う形で支援をしていくことを考えなければならないということを作業部会の中で話したところです。そのように考えていきますと、これは私見ですが、何か政策目標があって、そこに向けて文化団体の支援をするような、例えば財政面であれば助成金制度という構想があるのではないでしょうか。あくまで市民全体の税金を使って行政は運営されているので、そこから文化団体の活動に支援が回っていくのだとしたら、何らかの大きな目標があってそれに向けての支援になるのではないかと思います。そこを文化団体にもお考えいただく場を作ることも必要だということを作業部会で話し合いました。活動場所についてはいろいろな不満や要望がありましたが、古賀市の中ですべてを消化することは難しいと思いますし、近隣市町との連携や行政が設置運営をしているところだけではなく、民間や地域の施設を含めて様々な資源の活用を考えるべきではないかと思います。また運営の担い手として中心的なメンバーが足りない、代表の方や中心的な方にかなり負担がかかっていたり、その後を継ぐ人材がいないという問題もあるようです。そういった運営の担い手としてのノウハウや、活動の公共性に関わる部分に関して学ぶ場が必要であることとか、あるいは市民の文化度が低いという発言がありましたが、そうであればいっそ子供たちに着目をして、文化に触れる機会を増やす形で人材養成に力を入れることも考えていいのではないかと思います。最後の2点は私見が入っておりますのでお断りしておきます。そこでまとめみたいなものですが、古賀市の文化芸術の方向性について、なかなか文化団体のヒアリングから大きな目標につながる話題にはなりませんでした。古賀市にどういう資源があって特色があってというところから目標を引き出そうと考えましたが、「古賀市は音楽だ」とか「古賀市はやはりオペラだ」というように、粒立ててこれだというものがどうも無いようで、さまざまな資源が点在している状況であるとお見受けいたしました。それから条例にある基本理念をベースとして、『すべての市民が心豊かに暮らせる活力あるまち』を文化で実現するという目標を文化振興計画の目標にするのが良いかもしれないし、これから古賀市の個性を作るために何か方向性を定めるという手もあるかと思います。この大きな目標をどうしたら良いのか、作業部会以外の審議会の委員のみなさまにもご意見を頂くことが、今後の作業部会の議論にもつながっていくと思います。それから商工振興、教育、医療、福祉など従来の文化振興の枠を超えたところに視点を置くことも、現在の文化政策の各地で展開されている流れです。総合計画の中でもいくつかの目標が掲げられていて、文化という言葉が出てくるのは一部かもしれませんが、おそらく都市ぐるみのすべての部分に文化が関わ

	ることがあると思います。そこも含めて文化振興の基本計画を考えることが重要だと思います。それから新しい事業を立ち上げるときは、当然財源はどうするのかという話がございます。今回特に新しい財源が最初からあるわけではないと思いますので、何か新しい事業を提案するのであればリストラを考えなければなりません。そこも併せて議論していかなくては絵に描いた餅になってしまいますので、そういった部分に切り込んでいくことも必要だと思います。そうして文化団体のヒアリングを前回の審議会から今回までの間力を入れて取り組んだのですが、文化団体は文化芸術の作り手にあたる方々です。作り手だけではなく、受け手である一般市民や支え手としての行政、企業、NPO など様々な立場の方を含めて、文化環境をいかにバランスよく整備するかが求められます。文化団体からのご発言はもちろん重く受け止めつつ、それだけでなく幅広い観点から古賀市の文化のまちづくりの大きな目標に関して、まずは審議会でのご理論を頂ければと思っています。作業部会からの報告は以上です。
土師会長	大変ご苦労様です。精力的にこのようなヒアリングを何回も実施していただきました。今の古賀作業部会長の報告に対して意見をお聞きしましょう。私が一番印象に残ったのはいろんな団体から直接様々なな角度で意見を聞いて、それぞれの団体における課題や悩みや要望等が出てきていますが、古賀の文化のあり方について何を大きな目標に掲げるかというものがまだ見えてきていません。振興計画を作るにはやはり大目標を掲げ、それに向けて色んなアクセスや各論が生ずるわけですが、その肝心な姿がまだ見えてきていないことに一番の課題があるような印象を受けました。そうであればさらに今後この審議会をどのような形で回を重ねていけばいいのでしょうか。最終的に振興計画を策定するという、古賀の文化芸術に関する指針を作るのにどうやったら辿りつけるのかというのが一番大きな問題だと思います。古賀作業部会長の今のご指摘ご報告を踏まえて何でもいいですが、作業部会以外の審議会メンバーに何かご意見を承れればと思います。橋本委員、篠崎委員何かありませんか。
橋本委員	さきほど古賀委員がおっしゃったように団体間の交流とか連携について、顔見知りの方はたくさんいるのですが、今までほとんど情報の交換がほとんどできていませんので、そのようなところから始めればいいと思います。それと何を目標としていくのかこれからの指針や方向性についてここ何年間か話し合っておりますが、なかなか定まりませんので、その方向性をぜひ決めていけたらと思います。
篠崎委員	私は情報センターみたいなものを作って、そこで（人の）整理をして発信していくのが良いのか、それとも私たちがここでさまざまな文化団体や歴史的な担い手を整理して、（そこから情報センターの立ち上げに）持っていくのかどちらがいいのかと考えていました。とにかく私たちはどれをやっていくのかということをまず決めて、何か焦点化していく必

	要があると思うのですが、何が焦点になるのかまだよくわかりません。ただ集約するセンターが早くできればということを考えていました。
中山委員	古賀委員がご報告された中で思ったのは、文化芸術で古賀市をどんなまちにしたいか、古賀市の未来像を私たちが出していってそれを大きな目標にしていくのだろうと思いました。私は子ども劇場の事務局をしており、子どもに関わっていますので、どうしても子どもというところに目が行くのですが、古賀委員が言われていた文化芸術の担い手、受け手、支え手について、子どもというのは将来そのどれにもなる可能性があります。そういう子どもたちの可能性をどう文化芸術で高められるか、また心豊かな子どもたちが育つかといういうことを（目標として）お勧めしたいと思っていますが、古賀が文化芸術でこんなまちになったらいいというのを、みなさんがそれぞれにお持ちだと思いますので、意見を出し合ってはどうかと感じました。
古賀委員	今中山委員から言っていただいたように大目標をどうするのかを、なかなか絞りにくいところではありますが、作業部会以外の委員からご意見を率直にお話しいただけたので大変ありがたいと思っていますし、作業部会の委員で関わってくださった皆さんも、私の報告を聞いて補足してくださる部分もあるかもしれませんので、それぞれがお感じになっているところをそれぞれに伺えたらと思っています。
土師会長	では坂崎委員。
坂崎委員	当初現状のリサーチをするために作業部会を作り、今に至るのですが、（今日本全体が）このような経済状況で、古賀市も例外ではないので文化関係（の財源）を削られています。これは日本中といわず世界中でそのような動きがある中で、ヒアリングで驚いたことは、多くの団体が似たような活動を個別にしているということです。それにも関わらず横のつながりがなかったり、情報を共有していないと感じました。その中でも「楽器がないので買ってください」とか、「場所がないので何とかしてください」と行政に言っていたことに驚きました。市民のみなさんも経済的な情報を新聞やインターネットなどのメディアでご存じだと思うのですが、行政に対してそのようなリクエストをされるところが少なくなかったということです。自分たちで何とかしてみたか尋ねると、してないが自分たちではどうしようもないので、行政で何とかしてくださいという、前世紀の経済が良かった時のような錯覚をしている人が少なくないという印象を持ちました。また「古賀市の特徴は」という質問に対しては、「何もない土地だ」とか「取り立てて言うことはない」という意見が多かったことに驚きました。私は 18 年前にこちらに引っ越してきましたが、そのように皆さんが言うほど悪いところではないと思っていますし、良いところがたくさんあると思っています。その良いところが長く住んでいる方にはなかなか見えないのかもしれませんが、非常に残念だったと思います。それと併せて活動の発信などを集約して

	コンパクトな見やすいものにして提供する機能が無いと思いました。それには横のつながりがあまりにもなさすぎるし、それぞれ連絡を取ろうとしていないということがあると思います。それから普及的な部分の意見ですが、中山委員からも出ていた児童、生徒の学校教育の部分で私たちの子どもの時に比べると図画工作の時間や音楽の時間が減っているように感じる。学校現場でさえ文化芸術に関して学ぶシーンが減っています。私が子どもの頃はバスに乗って美術館に行ったり、コンサートホールに言って音楽を聴いたりする時間がいつの間にかありましたが、今はそのようなことが減っている。私は小中学生を対象に、バスで福岡市内の美術館に連れて行く『アートバス事業』に関わっていますが、アンケートで美術館に行ったことがあるかという質問に対して、驚くほど数少ないです。数は細かく集計していないので具体的に言えないのが申し訳ありませんが、とても少ないです。例えば20人参加していれば19人はこの美術館は初めてと答え、他の美術館や博物館に行ったことある子がさらに1人か2人いる程度です。行き帰りのバスの中でコンサートに行ったことがあるか尋ねると、コンサートとはどういうものですかという答えが返ってきたこともありました。子どもへの文化の普及活動が建設的に合理的になされてないのではないかと感じています。今年はスポーツに力を入れていかなければならないと聞きましたが、学校教育ではスポーツも文化も同様に求められることではないでしょうか。施策や条例でも、そのようなことを具体的に、積極的に話し合っていく必要があるのではないかと切実に思いました。何となく耳触りの良い、これだったらできるだろうというような計画は、結局実施されないことも多々ありますので、今までにないくらいの具体性を持って提案しくことが責務ではないかと思います。
岩村委員	実は作業部会のヒアリングには、3回のうち1回しか参加できていません。その中でも感じたことですが、私は中学校に勤めていて市民が学校現場に期待されていることは非常に大きいなということを感じながらヒアリングに参加させていただきました。古賀委員がまとめてくださった中の、子どもたちが文化芸術に触れる機会を増やす、それが裾野を広げることになるのではないかというところで、私もそこに切り口を持っていっていいのではないかと感じました。これは文化のこととは違違いますが、先ほどご説明いただいたマスタープランの「市の魅力」という中で、教育の所で触れてある「充実した子育てと教育の環境」という1ページの所で、私も糟屋地区の教員同士のサークルとか自分が関わっている生徒指導のこととかを対外的に話すときに、自信を持って言えるのは古賀の教育のシステムが今進もうとしている最も新しい取り組みをしていることです。例えば小1プロブレムや中1ギャップを市から提案いただいて、その中でより細かな支援が子どもたちにでき、少しずつ解消していっています。学校の中だけではなく、少年センターや特別支援教室も連携しながら、子どもと関わるシステムが古賀市にはあって、そのシステムを母体として、学校だけではなかなか進んでいかないような生徒指導の在り方や、一人一人の個性にあった生徒指導をすること

	が、今評価されています。古賀市ではそのように一体となって連携をして、一人の子どもに様々な立場の人間が関わって、支援していくことが一つの形づくりとなっているのですが、他市町村にはそんなことが可能なのかと言われています。文化も同じく、古賀の中で取り組んでいこうとする中で今保守的になって、無理ではないかと思っていることも、前例を基にしながら、古賀独自の思い切ったものを打ち立ててみて、そこに既存の文化芸術団体が関わり合うことで、強い力が発揮できるのではないかと感じました。
土師会長	私も意見を述べさせていただきます。一度ヒアリングの傍聴に参加して、直接どんな意見が出るのか聞いて自分なりに感じたことですが、私が古賀市で高く評価している、年末にあっている「第九」の演奏について話します。もうすでに6回目であり、一つの歴史を紡いでいます。その「第九」の財政面を直接取材してみました。文化芸術の一つの大きなモデルケースがここにあるのではないかと思い、探ってみました。一つ目は1回演奏会をするのに150万円かかるのだそうですが、それをどうして捻出するのかが毎年最大の課題だと言われていました。少し立ち入ったことを聞いてみると、出演者の歌う方や演奏する方が出演料を大体1,000円から10,000円くらい出しているそうです。また、例年以上に努力してプログラムに広告を1枠5,000円くらいで、相当あちこちに働きかけて50件くらい掲載しているということです。それに入場券収入を合わせて、何とか赤字になるかならないかという率直な内情を聞きました。行政に対しては、大ホールの使用料の全額免除によって後押しをしてもらい、非常に感謝していると言われていました。だからこそもっと出演者を増やしたいそうです。合唱は今回70人くらいだったのですが、100人いれば歌のボリュームが変わってくるけれども、舞台が狭くて入らない。だからその場だけの仮設でも良いから舞台の前にあと1メートルあれば、100人入ると言われていました。確かに今年の舞台を見ると、演奏者は靴が半分舞台から出ている状態でした。そのような対策をすると演奏会のスケールが変わってきますので、これも課題の一つだという思いがしました。これは失敗例ですが、飯塚は行政が800万くらいかけて「第九」を実施していたが、資金が続かず去年で止めてしまったそうです。そう見ると古賀は非常に厳しいけれど事業が続いており、継続していることが非常に大事なのだと感じました。レベルも年々上がってきていると感じます。これも古賀の文化を代表する一つの素晴らしい物だと感じました。そこでこの審議会において、1番根本のところをもう一度確認しておく必要があると思うのですが、この審議会はあくまで行政の枠の中で行っているということです。先ほど説明いただきましたマスタープランは行政の1番大きな憲法で、行政の立場からの計画が大前提となっています。行政を離れて審議会をしているわけではないので、古賀市という行政が文化芸術活動にどのように関わっていくのか、それが土台になければならないと思います。それを再確認しておく必要があるのではないかということが一つです。それから目標を具体的に絞り込むのは難しいのではないかという気がします。例えば太宰府のように1千

	年以上の歴史があるようなところは、否応なしにそれを柱に据えていくのでしょうが、そのようなものは古賀には無いし、では今から作るといってもそれが実現可能かとなると、それは難しいのではないかというのが私の印象です。従って条例が掲げる理念をさらに絞って具体的に計画の骨子にしなければいけないということに、余りこだわらなくても良いのではないかという気がします。これは私の個人的意見です。そこで行政がどのように文化芸術の振興に関わっていくのかというと、作業部会のヒアリングを聞いて分かったのは、一つは活動の場について、例えばリーパスプラザの周辺を新たに作り直すというようなところに現れるのではないでしょうか。もう一つは担い手を育成という面では、支援センターという意見が出て非常におもしろいと思ったのですが、ここは行政が関わっていかなければならない所ではないかと思います。さらにはこのようなご時世ですのであまり補助金と言うのもどうかとは思いますが、財政的な面を含めた支援も必要でしょう。要するに行政というのは、文化芸術に関しては側面的な立場なのではないでしょうか。行政そのものが中心となって、文化芸術活動の主催者になるのはいささか本旨に悖るのではないでしょうか。先ほど教育長が話された中で同感なのは、本来行政や補助金をあてにせず、自発的に地域や仲間と連携しながらやっていくべきものではないかと感じました。もちろん様々な面でサポートしなければならないけれど、芸術文化の本質とは地域における自然発生であり、自発的にやることで盛り上がってくるのだと思います。古賀市には数えきれないほどの大小さまざまなグループがあるし、まだどんどん雨後のタケノコみたいに増えてきている。それについて私は非常に高く評価しています。ではその先タケノコが育つにはどうしたらよいのか、それを行政の立場でどのように側面からサポートしていくのかということが、この審議会の進め方のベースになくてはならないのではないでしょうか。だからどうするのかはまだ時間がありますから、みなさんの意見を突き合わせながら、作業部会の今後の進め方をさらにご検討をお願いします。それをこの全体会で返していただいて意見出しながら、そこに行政側の意見ももう少し踏み込んでお聞きしたいところもあります。教育長や部長の話にも出てまいりました、リーパスプラザ周辺の建て替えなどの青写真が出来次第その話も聞きながら、入れ物と中身の調整をすることが必要になってくると思います。ちょっと水を挿すような取り方をされるかもしれませんが、率直に今までの話を踏まえての意見です。これまで古賀委員が中心になってヒアリング等積み重ねてきたわけですが、なお具体的な一つの課題や目標が見えてこないということを印象深く感じたので、無理にはっきり絞って作らなければならないのかということも含めて検討したい。
中山委員	作業部会には石井委員もおられますので、ご意見をお聞きしたいのですが。
石井委員	古賀委員からきちんとご報告いただきましたので余りありませんが、少しだけ述べさせていただきます。今の皆さんの意見を伺って、まだ（振

	興計画の）掴みどころがないというか、今日このような（マスタープランの）資料をもらいましたので、その考えを入れていかなければならないと思っています。それから行政への根強い不信感と古賀市民の文化度の低さを嘆く声が聞かれたというのは、まさにその通りではないかと思います。それから歴史文化の活動というところで、小粒の資源が点在していてとありますが、実は古賀市にはかなり大きな価値の物があるのにそれが生かされていないと感じました。古賀市には唐津街道の青柳宿、鹿部山は歩けるように整備もされておりますし、JRに乗っていて一番近い山です。まだ地下には遺産が多く残っています。それから千鳥ヶ池があります。天然の池で周りも整備されておりますし、チクシオオカヤツタが生えています。そこに行くと市民もジョギングや散歩をしていて、十分な古賀の誇りですし、昨年公園化しましたみあけ史跡公園などが立派に保存されています。また花見から花鶴の海岸ですが、歩いてん道という気持ちのいい道ができております。それとともに古賀の海岸の松林は福岡県でも誇れるような立派な松林です。また薬王寺廃寺も平安末の山郭寺院であり、寺院というのは当時そんなに多くないのです。それから温泉があります。このようにかなり大粒な資源があります。それをまだまだ十分に活用されていないというのはわれわれの責任ですが、そのようなものが十分に生かされれば、歴史文化のほうでは利用ができるし、市民が参加できると思います。また古賀竟成館高校のデザイン科はできて2年ですが、いろいろな成果を出しています。そのような物を文化芸術の中に取り込んでいき、もっともっと生徒を参加させるということができるのではないかと思っています。このように古賀市には小粒ではなくどこへ行っても通用するものがあると思っています。
土師会長	一通りご意見いただきました。意見はまだバラバラですが、今日は時間もだんだん迫ってきましたので、この審議会の日程も含めてですが、作業部会を今後どのように進めていくか何かお考えがあればお聞かせ願えますか。
古賀委員	作業部会は部会を始めた当初の大まかな流れとして、今年度中に文化団体の活動の実態調査をするだけでなく、他都市の文化芸術振興計画を学習しながら古賀市の場合はどうしたらいいのかを考えようという大まかな流れを確認してきました。そこで他都市に関する研究がまだこれからとなりますので、そのようなこともやりつつ今日の審議会で皆さんにご意見いただいたことを踏まえて目標をどうするのかを話し合っていくことになるかと思います。先ほど土師会長からご意見いただきましたように文化団体の方の活動を側面支援することが行政の役割だというところは大原則だろうと思います。ただ他都市の最近作られた振興計画を見ておりますと、やはりそこにとどまらない行政の役割が出てきているかに思えますので、その辺も作業部会で計画しながら審議会にご提案できたらと思っています。今後そのような方向で作業部会は取り組んでいきたいと思っています。